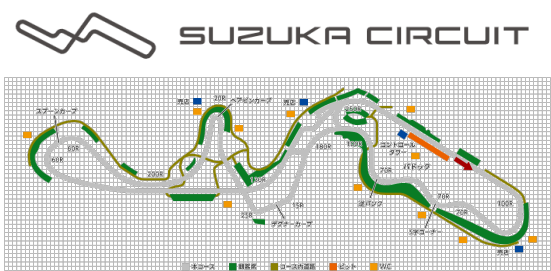


## 2023 GR86/BRZ Cup Rd.6 鈴鹿 現地レポート

開催日：2023年10月28日-29日  
場所：鈴鹿サーキット  
チーム名：Team Takuty CHIBA SUBARU Racing  
参戦車両：SUBARU BRAZ 87号車  
ドライバー：久保 凜太郎  
メカニック：秋葉 秀二(CSTA 成田) 山田 拓人(幕張店)  
榎木 奏斗(京都スバル)



### 10月26日(木)

前日の水曜夜に鈴鹿入りした CHIBA SUBARU Racing、TOKYO SUBARU Racing と Team Takuty の皆さんにテント設営などをお願いしてしまいました・・・参加できずにすみません・・・ありがとうございました！！

そして始まったレースウィーク。今回の鈴鹿は、日本のモータースポーツでも最高峰に位置する「**スーパーフォーミュラ(以下 SF)**」と同時開催ということもあり、入口付近など、色々な場所で各企業のイベントブースの準備が始まっていました。ホテルからサーキットまでは15分の距離！今までで一番近い！非常にありがたい！！

この日、我々も9:00前にはサーキット入り。タイヤの準備などを行い、気づけばあっという間に11:00からの1回目スポーツ走行の時間。

今回のメカニックは事前に鈴鹿サーキットで研修を実施しているものの、テントでのサービス作業は初めて。緊張しながら一つ一つの作業を進めていました。

87号車メカニックは、ベテランの**秋葉秀二(CSTA 成田)**と、身長190cm超の長身メカ**山田拓人(幕張店)**が担当。そして京都スバルから**榎木奏斗メカ**が参戦してくれています。朝は肌寒かった鈴鹿でしたが、走行前になると気温も少しずつ上がり、路面温度も35℃



を超えるほどに。この日は、87号車・88号車共にコースを確かめるように、走行を続けていきます。メカニックもタイヤのエア圧力(以下内圧)の確認調整を中心に徐々にサーキットに慣れていきます。1回目スポーツ走行後に、タイヤの清掃や下回りの締め付け確認などを実施し、2回目スポーツ走行の準備に入ります。この日の2回目スポーツ走行は14:30～。ここでも内圧調整を細かく実施しながら、テスト周回を重ねていきます。毎戦のことですが、レースに勝つための重要な仕事

の一つに、タイヤ内圧の測定と調整があります。文字通りタイヤの空気圧調整ですが、一般の車と大きく違うところがあります。メカニックはピットに車が戻ってくるとすぐに、内圧測定して、ドライバーとプロメカニックへ伝達します。するとドライバーの感覚や気温路面温度などから、内圧設定値についてメカニックへ指示が出ます。この指示が、一般の車両と大きく違うのです。一般の車両は基準値に合わせる事が多いのですが、レースでは4輪それぞれ違う数値で指示が出ます。それもかなり細かい数値で合わせていきます。例えば一般の乗用車の基準値が230kpaだとすると、調整は基本的に10kpa単位。レースでは1kpa単位で変更していきます。これを繰り返して、サーキットにあった内圧を探っていくのが、この日のメイン作業の一つです。そんな重要な内圧管理を任されたのは、ベテランの秋葉メカ。「**内圧の管理は重要です。緊張感の中、正確に伝えることを意識して頑張ります**」と、しっかりと対応してくれていました。



## 10月27日(金)

この日は、朝から穏やかな晴れ。昨夜は雨が降っていましたがサーキットに着く頃には路面も乾いて気温も上がってきました。本格的にレースウィークに突入した鈴鹿サーキットは、同時開催が SF ということもあり、金曜日からお客さまやメディアの方がいつもより多く来場しています。ピットではフォーミュラのエンジン音が響き渡り、早朝からサーキットには、やや張り詰めた空気が流れています。実は、ホテルを出る前にちょっとしたアクシデントがあり、87号車メカニックがテントに着くと車が無い・・・既に87号車・88号車は車検場で行われる「重量測定」を行うために移動していました(汗)到着と同時に急いでメカニックは車検場へ。

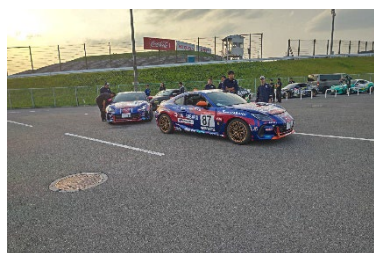
2日目の走行は9:30～が「スポーツ走行」、11:45～は「専有走行」が予定されており、明日の予選に向けた大事な一日となります。重量測定から車が戻るとすぐに走行準備に入ります。87号車も昨日のスポーツ走行のデータを基に、ドライバー久保選手の意見と経験豊富なプロレースメカニックとで、セッティングを詰めていきます。走行が近づくにつれてメカニックにも緊張が伝わっていき、動きも機敏になっていきます。いよいよスポーツ走行開始。天気は快晴ですが路面温度はそこまで高くなく、ピットに移動してからも内圧調整を実施します。このスポーツ走行は30分間の走行枠ですが、その間に7周から8周走行し車両の状況やコースの状況に合わせたセッティングを詰めていきます。メカニックもプロメカからの指示を聞き逃さないよう、慎重に作業を実施。87号車 久保選手は **2分27秒台**。



まずまずのタイムで終了しました。88号車 井口選手もほぼ同じタイムで走行終了。

全体順位も真ん中よりやや上位をキープできています。

走行が終わると、すぐに「専有走行」に向けた準備に入ります。下回りの確認や各部のメンテナンスなど、1時間半程あったインターバルもあっという間に過ぎていき、「専有走行」のスタートを迎えます。先程のスポーツ走行に比べ、やや気温が上昇したことにより、内圧もさらに調整が入ります。ピットからスタート、コントロールラインを通過し87号車 久保選手は **26秒台**で7番手。88号車 井口選手も同じく **26秒台**で3番手。共に同じ26秒台なのに



7番手と3番手なのはなぜ・・・？実は井口選手と久保選手のタイム差はなんと、0.2秒・・・その間に3台！この鈴鹿は1周が長いコースにも関わらず、既に混戦の予感がする結果となりました。

そんな「専有走行」も終わり、昼食を取った後は、車検に向けた作業に入ります。ミッションオイルやデファレンシャルオイルの交換・各部の締め付け点検・清掃が実施されていきます。

15:45には作業も完了し、車検場へ。過去に何度かアライメントで引っかかったことがあるので、今回も内心緊張していましたが、メカニック達の仕事は素晴らしい！難なく車検も通過して、この日の作業が終了しました。



## 10月28日(土) 予選

この日、7:30頃サーキット入りしたスタッフは、SF同時開催の恩恵(?笑)を受け遠く離れた駐車場から歩いてサーキット入りします。

木曜日から徐々に設営されていたブースの开店準備を横目に、スーパーフォーミュラというレースの大きさを感じながら、予選の朝を迎えました。

サーキットに着くとすぐに、ニュータイヤのマーキングに向かいます。



予選走行開始は 10:30～。テントではメカニック達による、各部の走行前最終チェックが進められます。お馴染みとなりましたが、このレースは予選の順位が大変重要なレースです。チームの空気がやや張り詰め始めた頃、ドライバーがフリーイングから戻ります。ここから、チームの眼差しが一気に真剣モードに切り替わっていきます。

他のチームと比べても、比較的穏やかな、Team Takuty ですが、通常モードと真剣モードの違いはよくわかります。



メカニック達も肌で直接感じ取っているようで、緊張しながらも一つ一つの作業をみんなで確認して、確実に進めています。

今シーズン終盤ということもあり、車両のセッティングについて、ドライバーとプロメカニック達が、お互いの意見をぶつけ合う場面もありました。そんなやり取りを間近で聞きながら、「いつかはこの会話の中に入って意見を言い合えるようになりたい・・・」なんて心の奥底で思っていて・・・実はこっそり勉強中です(笑)

ドライバーはレーシングスーツに着替え車両に乗り込み、メカニック達は最小限の工具を持っていよいよ、ピットへの移動が始まりました。メカニック達の口数も今までより少なく感じます。

10:30～予選開始と同時に最初にアタックする車両が続々とスタートしていきます。約 10 分後、いよいよ 88 号車・87 号車の順でアタックに入ります。いつものように何台かのマシンが後を追うようにコースイン。ここまできるとメカニック達はドライバーに託すのみ。スマートフォンを通じて表示されるタイムを見つめます。インラップからコントロールラインを通過しいよいよアタック開始。その間、先



にコースインした車両が 26 秒台前半を記録している状況。更に 25 秒台を記録し始めているマシンもちらほらと。緊張感が続く中、ブルーの 2 台がコントロールラインを通過。わたしのストップウォッチも 87 号車が通過するタイミングで力強く計測ボタンを押した瞬間・・・自然と声が。「87 号車が 25 秒台を表示している・・・」すぐにモニターを確認すると、**2'25.891** で 3 番手。叫びたい気持ちと“まだ予選、冷静に”という気持ちに挟まれながら、久保選手を迎えます。87 号車のドアが開くと、ヘルメット越しの久保選手の顔がなんだかいつもよりも険しい！？ギリギリを攻めた久保選手は、「ペナルティなかった？確認して！」と・・・ドキドキでしたが、もちろんペナルティはなく正式に 3 番手スタートが確定しました。88 号車 井口選手も **2'26.071** で 8 番手。

明日の決勝に向けて非常にいい位置で予選を終えることができました。

今回もトップタイムから 1 秒の中に 12 台が入る大混戦。この結果からみても明日の決勝は「荒れる予感しかしない」とこの時点で思いました。

秋葉メカ「自分の作業が少しでも貢献出来てよかった」

山田メカ「準備からいい仕事が出来て結果につながり良かった」

と明日の決勝に向けた気持ちを語ってくれました

午後は、2 レース制の SF の決勝レース 1 回目(Rd.8)が開催されることもあり、

多くのお客様が来場している状況。予選終了後には車両を保管されてしまうため一切整備作業ができません。

そこでメカニック達は Team Takuty 代表でもあり、現在ランキングトップ！井口選手が出演するトークショーを観に特設ステージに向かいました。会場には様々なブースが展開されており、改めてモータースポーツファンの多さに、気が引き締まりました(笑)



## 10月29日(日) 決勝

いよいよ、決勝の朝を迎えました。この日も鈴鹿は晴天に恵まれ、さわやかな朝を迎えています。鈴鹿サーキットは朝からたくさんのお客様が来場されています。

昨日の SF 決勝で、大クラッシュが発生。コースフェンスを倒してしまうほどの大クラ



ッシュで、一時はコース復旧が間に合わず今日のレースが中止になる可能性もありました。しかし一晩中コースの改修作業を実施してくれたオフィシャルの皆さんのお陰で、無事今日のレースが開催できることとなりました。改めて、レースは主催コースのオフィシャルさん達の「影の努力」がなければ開催できないし、「安全」に走ることもできないと感じました。オフィシャルの皆さん、本当にありがとうございます！！

今朝のテントでは、8:00 に車両保管解除となり、決勝コースインの 12:00 に向けて最後のメンテナンスが行われています。2 台の車両がテントに戻ると同時に、メカニック達によりタイヤが外され、誰に指示されるでもなくホイール



や下回りの清掃を開始していきます。毎回思うことなのですが・・・レース経験なんてほとんどないはずなのに 3 日間作業を続けていると、予選や決勝の日には自ら行動できるようになっているんです。環境の違いはあるものの、彼らのプロとしての順応性を今回も感じながら作業を見守ります。そして作業中に起こってしまったプチアクシデントにも、メカニック達が協力しながら対応していく場面もあり、チームの素晴らしさと強さを感じました。

その頃、サーキットでは一足先にクラブマンの決勝レースが行われています。今回スバルディーラーグループとして、東海地区(名古屋スバル・岐阜スバル・三重スバル)の自動車部の皆さんが、このクラブマンシリーズに参戦しています。金曜日からサーキット入りされ、色々なお話を伺いました。ドライバーも社員の方で運営しているこのチーム。グループ会社の部活動の一環で参戦されているとのことでした。実は、前からこのチームが参戦されていることを知っていたので、今回お会いできるのも楽しみにしていました。もちろん応援もしてきました！！

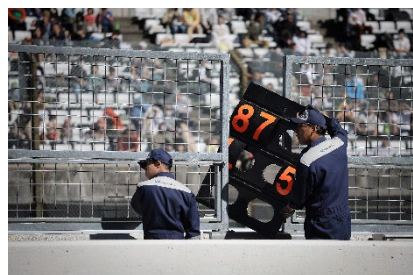


最終戦富士も参戦されるようなので、皆さんも「555 号車・青い BRZ」の応援もよろしくお願いします！！

さて、いよいよ我々プロフェッショナルクラスの決勝スタート時間が近づいてきました。気温は約 25℃。コースイン時間になり、メカニックも最低限の工具と、サインボードを準備してピットに向かいます。87 号車はピットレーンに整列すると、合図と同時にコースイン。グリッドに向かいます。今回 87 号車は前方 3 番グリッド。88 号車も少し後ろの 8 番グリッドにつきます。グリッドについても内圧担当のベテラン秋葉メカには大事な仕事があります。最後の内圧調整。決勝前にメカニックが車を触れるのは、内圧とホイールナットの締め付け確認くらい。この最後の作業を確実にこなす頃、オフィシャルの笛の音と共に、スタッフはコース外に誘導されます。



いつものように久保選手とグータッチをして、ちょっと離れた井口選手の元へ急ぎます。



いよいよ、決勝レーススタートです。メカニック達もスタートを見守ります。前回、岡山では途中大きなクラッシュもあったし、前日 SF でも大きなクラッシュが発生しているので、とにかく何事もなくレースが進んでくれることを祈りながらスタートしました。スタート直後、素晴らしいスタートを見せた 7 号車 堤選手にパスされ、久保選手は 4 番手で 1 コーナーに飛び込みます。それ以上に素晴らしいスタートダッシュを決めたのは 88 号車 井口選手。1 台かわして 7 番手で 1 コーナーへ飛び込むと、久保選手を追いかけ 1 周目ホームス

トレートでは、久保選手の後ろまで追い上げをみせます。序盤から混戦で激しいバトルが続く中、事件が起こったのは 2 周目。シリーズ優勝を目指す井口選手を先に行かせる形をとった 87 号車 久保選手。その直後、横から接触を受け、コース外に押し出されてしまいます。久保選手はコースを外れた車を巧の技術でコントロール。すぐにコースに戻ります。しかしこのアクシデントが響き、久保選手は 8 位でフィニッシュ。井口選手は 4 位でフィニッシュと

なりました。悔しい結果となってしまいましたが、これもこのレースの難しいところ！わたし達以上に悔しいのはドライバーの久保選手！それでも、しっかりポイントも取れたのは、あのリカバリーのお陰。久保選手ありがとう！レース後は久保選手への接触が審議になっていましたが、後に相手選手へのペナルティがつき、最終的に7位に繰り上げとなりました。



レース後、久保選手「走行中、押し出される形になり非常に悔しい！それでも井口選手が4位、自身もポイントを取れたので良かった。」と悔しさを滲み出しながらコメントしてくれました。

## レース終了後

皆さんの応援のお陰で、今回も大きなトラブルもなく無事に完走し、ポイントも獲得しました。

それでもレースを通して、スポンサー様を含め色々な方々の協力があってスタートラインに立てていること、少しでも最高のコンディションに車を仕上げようと黙々と作業を続けるメカニック、レースの申請や食事、宿泊など様々な手配を実施してくれるスタッフ、そして応援してくれる皆さん、みんなの気持ちを背負って走るドライバーの気持ち、その全てがたった4日間のレースウィークにギュッと凝縮され、レース結果に結びついていく…。本当にレースは奥が深く、厳しい世界だと改めて感じる第6戦 鈴鹿ラウンドでした。

いよいよ次戦は、富士で11月25-26日開催の最終戦となります。Team Takutyとしても、CHIBA SUBARU Racingとしても、大事な一戦となります。「応援(声援)は力だ！」引き続き応援よろしくお願いいたします。

